

# ○不登校を未然に防止するための取組事例

## (1) 不登校を未然に防止する必要性

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)における本県公立学校の不登校の状況を見ると、指導の結果登校できるようになった児童生徒の割合は3分の1程度(下表参照)である。

	H19	H20	H21
小学校	37.5%	36.3%	33.6%
中学校	30.8%	31.0%	35.2%
合計	31.9%	31.9%	34.9%

つまり、一度不登校になると3分の2の児童生徒は学校に戻れない状態が続いてしまい、その対応が困難であるということを表している。各学校では、電話連絡や家庭訪問による対応をしているものの、その成果はなかなか上がりにくいのが現状である。

そこで、重要になってくるのが不登校の未然防止である。以下にその観点に立った取組を実施し、成果を上げている学校の取組事例を紹介する。

## (2) 取組事例 (○は発達課題「自立」「耐性」「適応」を達成するための分類)

①学校としての取組	自立	耐性	適応
異学年集団による縦割り班での活動	○		○
欠席0の日を意識し、それが達成された日には、全校生に報告		○	○
欠席者の複数職員によるチェック		○	○
がんばったで賞や親切にしたで賞を設け、校長による表彰の実施		○	○
習熟度別学習、TT、個別対応学習の実施			○
児童生徒一人一人に役割を持たせた学校行事の実施	○		
ノーチャイムデーの実施	○		
親子で生活習慣を振り返るカードを作成し、小中学校共通で使用	○		
小学校1年生からの記録をファイルし、中学校に引き継ぐ			○
地域の人との交流			○
水泳、縄跳び検定等、季節に応じた目標を持たせた体力づくり		○	
集団行動の徹底		○	
無言清掃の実施		○	
教育相談週間の実施	○	○	○
全職員による情報交換	○	○	○
学校全体でエンカウンターの実施			○
②学級としての取組	自立	耐性	適応
人前で話す場面の設定	○	○	○
家庭と連携した家庭学習の実施	○	○	
学業指導を意識した学級づくり	○	○	○
日頃からの保護者との良い関係づくり			○
1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問		○	○
給食時のグループ編成の工夫		○	○
帰りの会などで一日を振り返り、クラスの友人をほめる時間の設定			○
クラスでルールを作り、そのルールを守ることの徹底		○	○
学校行事への取り組み方の工夫	○		○
心のノートの活用	○		○
生活ノートの活用	○		○
Q-U検査の活用			○

※これらの取組が不登校の未然防止に効果的であるということ意識することが大切である。